

## 生物多様性

生物多様性という言葉があります。言葉は難しいですが、端的に言うと、いろいろな生き物がいるということです。生物多様性が高い、とは生き物が多いということを意味します。

伊豆沼はキツネなどの哺乳類からガンなどの鳥、トンボやチョウなどの昆虫、ハスといった植物から、泥の中にいてほとんど目にすることないユスリカまで1000種類の生き物が生息しています。さまざまな生き物が生活する生物多様性の高い湿地です。

ところで、観察会で私が鳥を素早く発見するのを見て、驚く方がいらっしやいます。同僚の魚の専門家は同じ水面を見ている私よりも早く魚を見つけます。同じ風景でも見えているものが違うのです。それは意識に差があるからです。一方で意識しさえすれば、これまで見えてこなかったものがおのずと見えてくるようになります。

そして見えてくるようになると自然にはいろいろな生き物がいることに気付くはずですが。いろいろな形があり、いろいろな食べ方があり、いろいろな子孫の残し方があることが分かります。生き物の多様な世界を分かるようになってくるのです。

生き物である人も同じです。相手の存在を意識し、お互いを認め合うことによって、いろいろな人がいるのだということが分かってきます。そして世の中にはいろいろな考え方があることを理解できるようになります。人の世界も多様であることが基本にあり、人と違って当たり前なのです。人と同じであることの方がむしろ不自然です。

生物多様性というと人とは関係のない、生き物だけの話のように思うかもしれませんが。しかし人も生き物です。まずは人間同士、お互いを認め合って考え方の違いを尊重し合うことが大切なのではないかと思います。そうして、そのことがさまざまな生き物がいることへの理解にもつながると思います。人の多様性を深く理解することが、生物の多様性を理解するために、今、もっとも求められているように思います。

嶋田哲郎

(河北新報・微風旋風 2015年6月4日掲載)